

2025年3月期

# 第3四半期決算説明資料

---

株式会社エンバイオ・ホールディングス  
(証券コード:6092)

2025年2月14日



## 1. 業績ハイライト

---

## 2. セグメント別状況

---

## 3. 通期連結業績予想

---

## 4. 株主還元・IR

---

## 5. Appendix

---

# 業績ハイライト 01

# 2025年3月期 第3四半期連結決算のポイント

連結売上高は前年同期比117%、連結営業利益は同179%と伸張しました。  
EBITDAも同151%と大幅な増益となり、ストック収益が順調に伸びていることを示しております。

## <第3四半期トピックス情報>

- 売上高は、各セグメントが前年同四半期比大幅増収となったため、**ブラウンフィールド活用事業**の前期の大型物件販売の反動を吸収し、増収となりました。
- 利益面は、**土壌汚染対策事業**及び**自然エネルギー事業**が前年同四半期比減益(低採算案件の売上計上及び能登半島地震の影響による修繕費用発生等が要因)であったものの、**ブラウンフィールド活用事業**が大幅増益(好採算物件の売却等が要因)となったことや第2四半期累計期間までの業績が好調であったことから大幅増益となりました。
- 中国事業は、これまでの状況、中国経済の今後の見通しを踏まえ、**土壌汚染対策事業**から撤退し、EHS(環境・健康・安全)コンサルティング業務に集中することとしました。
- 通期予想は、第4四半期は例年**自然エネルギー事業**の売上が季節要因により落ち込むこと、**ブラウンフィールド活用事業**の販売状況を勘案し、据え置きとしております。

# 2025年3月期 第3四半期連結決算ハイライト

(単位:百万円)

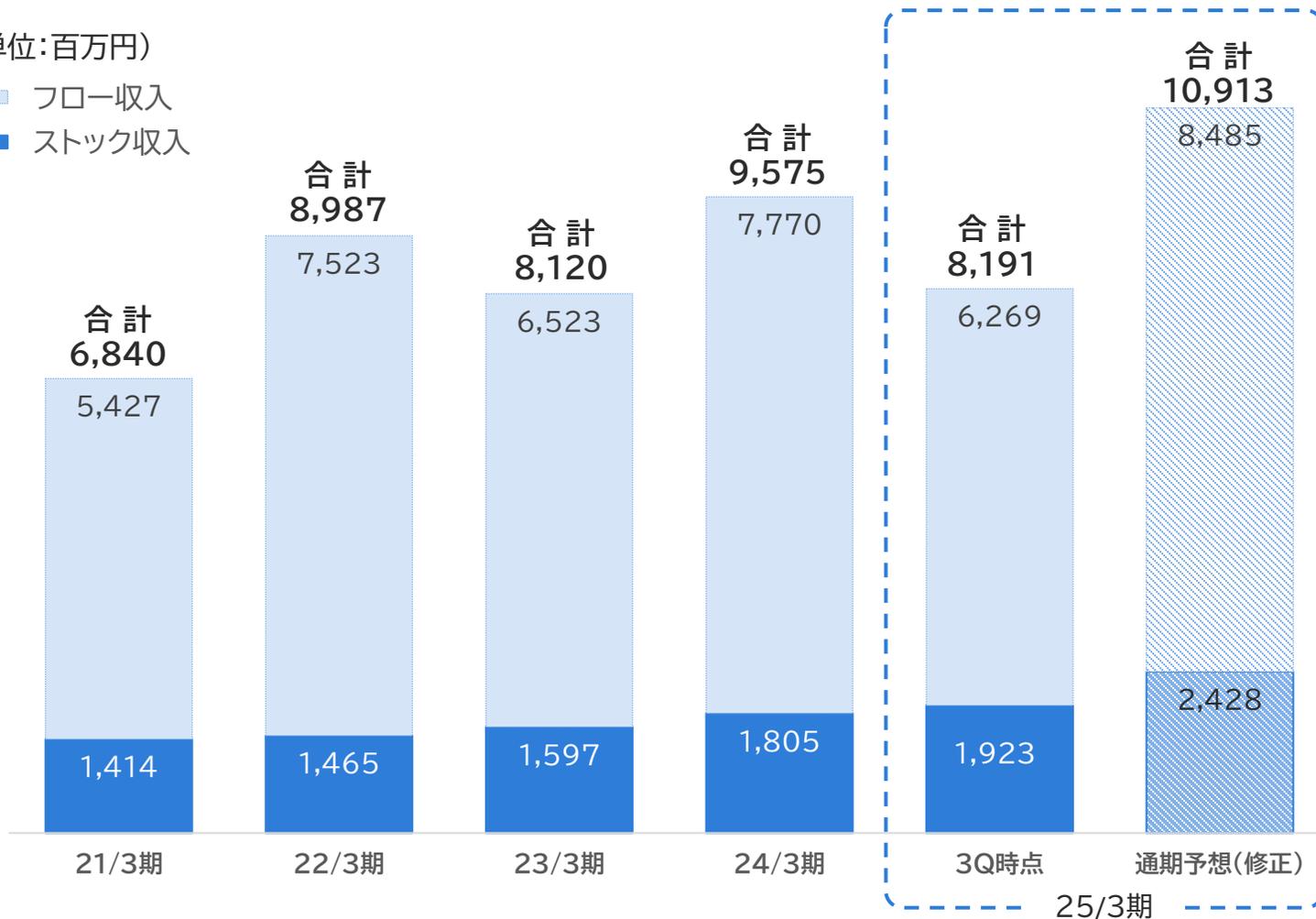
	2024年3月期 3Q実績		2025年3月期 3Q実績		
		利益率 (%)		利益率 (%)	前年比 (%)
売上高	6,986	—	8,191	—	117.3
営業利益	467	6.7	835	10.2	178.7
経常利益	546	7.8	869	10.6	159.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	345	4.9	565	6.9	163.9
期末為替レート (1ドル)	141.82円	—	158.17 円	—	—

# 重要な指標：売上高の推移／収益構造転換の進捗状況

売上高の修正通期予想に対する進捗率：75.1%

(単位:百万円)

- フロー収入
- ストック収入



## 【収益構造転換について】

- ✓ 中期的な目標として、フロー収入からストック収入の比率を増やし、強靱な利益体質への変更を目指している
- ✓ 自然エネルギー事業によるストック収入は着実に拡大しており、中期経営計画2026最終年度の売上目標値28.9億円の達成を確かなものとする
- ✓ ストック収入比率  
24/3期 18.8%  
25/3期3Q 23.5%

# 重要な指標：投資効率／関与太陽光パネルの出力状況

## 投資効率の推移

経常利益については為替変動による押し上げがあったが、EBITDAにおける前年同期比でも大幅な増益となり、利益体質の改善が顕著となった。

(単位:百万円)

	24/3期 3Q	25/3期 3Q	前年比
売上高	6,986	8,191	117.3%
経常利益	546	869	159.2%
EBITDA ※	790	1,193	150.9%

※ 営業利益+減価償却費+のれん償却額で算出した値としております。

## 当社が関与する太陽光パネルの出力

早期に太陽光発電所の保有出力を100MWに引き上げることを目標としており、毎年度10%程度の着実な成長を続けている。

当四半期における達成状況は次のとおり。

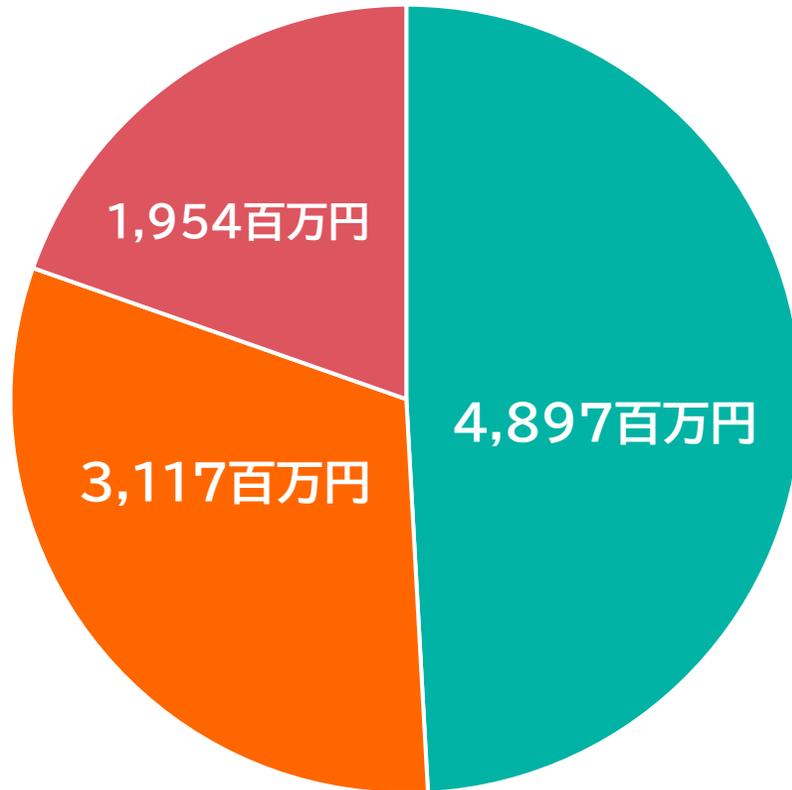
	23/3期	24/3期	25/3期 3Q
MW	44.1 MW	48.4 MW	54.9 MW
MW前年比	110.8%	109.8%	113.4%
関与MW ※1.	— MW	7.9 MW	18.0 MW
当期トピック ※2.	—	—	LSふじみ野Aの 運転開始

※1. 関与MWはインドネシア関連会社を通じた投資で業績には反映されていない。

※2. LSは、(株)シーアールイーが開発する物流施設「LogiSquare(ロジスクエア)」。

## 重要な指標：有利子負債残高の内訳

有利子負債の合計 9,968 百万円 (2024年12月末)



### ■ 自然エネルギー事業

設備投資目的  
長期安定収益/配当原資確保  
低リスク

### ■ ブラウンフィールド活用事業

不動産投資目的  
短中期アップサイド収益狙い  
中リスク

### ■ 土壌汚染対策事業/グループ管理

運転資金目的  
短期収益  
低リスク

有利子負債の額は売上規模に比し多額であるが、リスクのある借入はブラウンフィールド活用事業の部分のみ(中リスク)と判断しており、リスクをコントロールしつつROE向上に資する積極的な借入を行う財務戦略を推進している。

# 02

セグメント別状況

# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

- ✓ 土壌汚染対策事業は、第2四半期までの好採算大型案件の影響により、累計では増収増益を維持するも、今後の事業拡大を見据えた環境プラント工事、建築工事、解体工事の拡大により、売上高は順調に拡大したものの、増益幅は縮小となった。
- ✓ ブラウンフィールド活用事業は、前年第1四半期の大規模物件の取引により、売上高は前年同期比減収傾向が続くが、好採算物件を売却できたことからセグメント利益は増益に転じた。
- ✓ 自然エネルギー事業は、発電所物件数の増加に加えて、再エネ電力供給サービスが順調に拡大したものの、能登半島地震の影響による修繕費用の発生等により前年同期比増収減益となった。

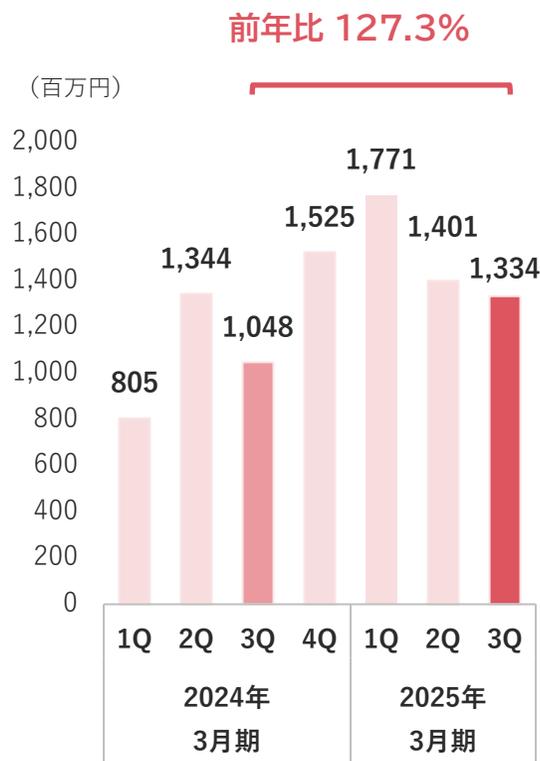
(単位:百万円)

	2024年3月期 3Q実績		2025年3月期 3Q実績		
		構成比(%)		構成比(%)	前年比(%)
売上高	6,986	100	8,191	100	117.3
土壌汚染対策事業	3,198	45.8	4,507	55.0	140.9
ブラウンフィールド活用事業	2,549	36.5	1,923	23.5	75.5
自然エネルギー事業	1,238	17.7	1,760	21.5	142.1
経常利益	546	100	869	100	159.2
土壌汚染対策事業	149	27.4	391	45.0	261.3
ブラウンフィールド活用事業	257	47.1	320	36.8	124.3
自然エネルギー事業	243	44.5	199	22.9	81.9
セグメント利益調整額	△104	△19.1	△41	△4.8	—

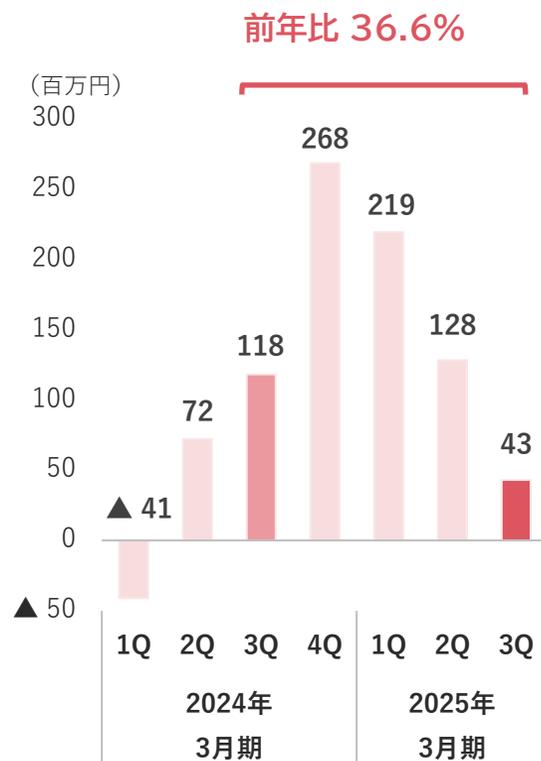
# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## 土壌汚染対策事業

### セグメント売上高



### セグメント利益



### 3Qの結果・成果

- ✓ 差別化された技術提案に注力
  - ✓ 土壌汚染の管理を目的とする経済的な対策(リスク管理型手法)
  - ✓ 対策工事の総額を保証するコストキャップ保証
  - ✓ 原位置透過壁工法(プルーフストップ工法)
- ✓ PFOS・PFOA調査対応製品を揃えて顕在化しつつある新たな市場にいち早くアプローチ
- ✓ 土壌汚染対策工事に次ぐ、環境プラント工事、建築工事の売上高は順調に増加するも利益率改善が課題
- ✓ 中国は採算性の悪化、中国経済の見通しが困難等の理由から土壌汚染対策事業からの撤退を決定(2024年12月25日開示)
- ✓ 2Qまでに好採算案件が完工し、実績づくりと顧客拡大を目的とした環境プラント工事、建築工事、解体工事が原価率を悪化させたため、増収減益となった

## 土壤汚染対策事業

### 市場環境

- ▲ 当社を含む上位数社での競争が激化傾向
- ▲ 土壤汚染に対する理解が進み、完全浄化を求めず経済性を重視して予算を縮小する傾向
- × 建築資材等の価格高騰によるコスト上昇から開発計画が中止となり消滅する案件が散見
- PFOS※1・PFOA※2による地下水汚染の全国的な顕在化と政策的な検討開始
- × 中国市場において、現地企業との競合による採算性の悪化、中国経済の今後の見通しが困難、収益の確保及び今後の成長が見込めないと判断

※1 ペルフルオロオクタンスルホン酸の略称

※2 ペルフルオロオクタン酸の略称

環境省は2020年5月28日、PFOSとPFOAを人の健康の保護に関する要監視項目に位置づけ、公共用水域及び地下水における暫定指針値を1リットルあたり50ナノグラム(50ng/L、PFOSとPFOAの合計値)に定めた

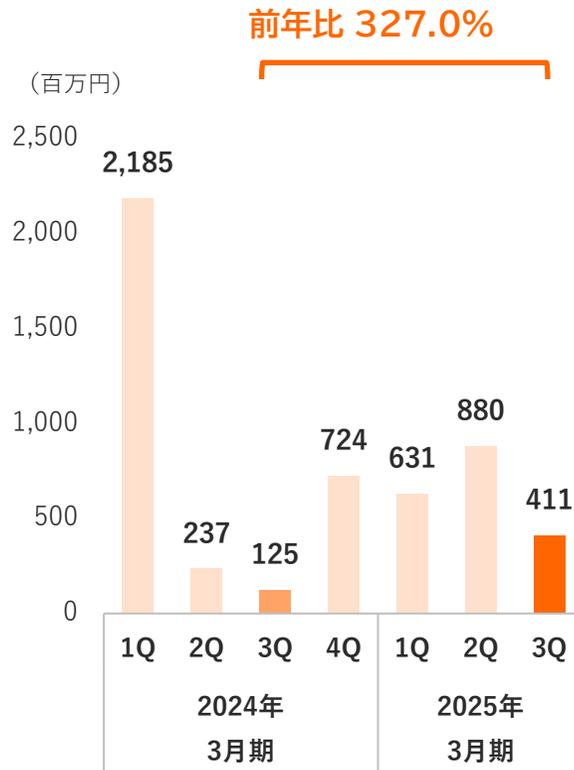
### 営業状況

- リスク管理型手法やコストキャップ保証など差別化されたサービスの提案を強化
- 原位置透過壁工法(Appendixに詳細記載)は東京都より補助金対象の地下水汚染拡大防止技術として承認され、第1号案件を受注
- PFOS・PFOA対応サービスの地方自治体への提案を強化、営業活動を本格化
- 土壤汚染対策工事に次ぐ環境プラント工事や建築工事で顧客開拓を本格化
- × 中国における土壤汚染対策事業から撤退することを決定

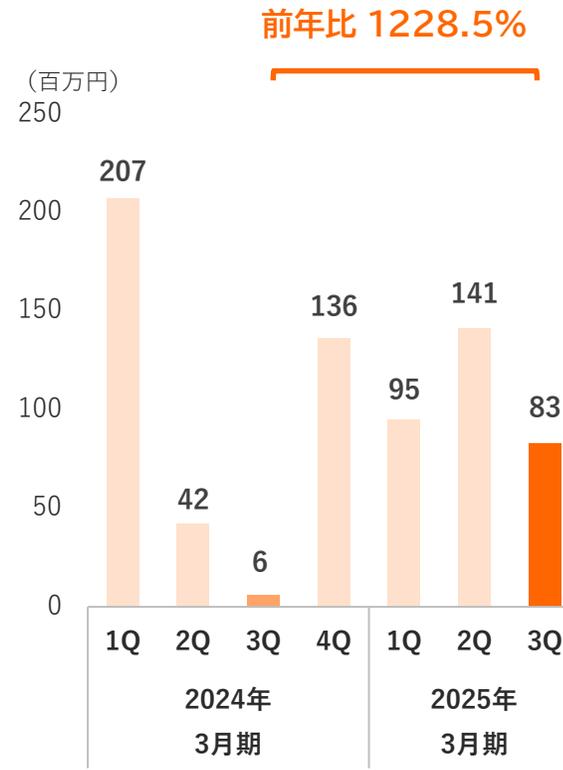
# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## ブラウンフィールド活用事業

### セグメント売上高



### セグメント利益



### 3Qの結果・成果

- ✓ (株)エンバイオ・リアルエステートでは、仕入れ競争が激化しており2物件の仕入れに留まるものの、契約済が3物件あり
- ✓ 販売件数は2件に留まるものの、好採算物件を売却したため、セグメント利益が増益に転じた
- ✓ (株)土地再生投資は、2件の受注斡旋(土壌調査)を実施したものの、仕入れは難航

## ブラウンフィールド活用事業

### 市場環境

- ▲ 不動産市場は、建築資材価格の高騰等により住宅販売価格が上昇し、エリアによっては住宅需要に影響が出ているが、賃貸アパート用地の需要は高い
- 工業地帯は、エリアによっては大型物流施設用地が供給過多となっており動きがやや鈍化しているものの、工場用地などの引き合いは強い

### 営業状況

- (株)エンバイオ・リアルエステート
  - 大田区内の工場・居宅(土壌汚染地)を取得。今後、土壌汚染を適正に管理したうえで戸建建築予定
  - 今期取得した川越市内の工場跡地約1,400坪の土壌調査完了、解体工事着手
  - 京都市内の研究所跡地の土壌浄化計画作成中、引き続き関西エリアの仕入れ営業中
- (株)土地再生投資
  - 複数の売却案件の相談を受けており、調査・対策等の提案を実施している
  - 保有する第4号案件(千葉県八千代市)の土壌浄化工事が完了し、区域指定解除、土木設計に着手

# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## ブラウンフィールド活用事業

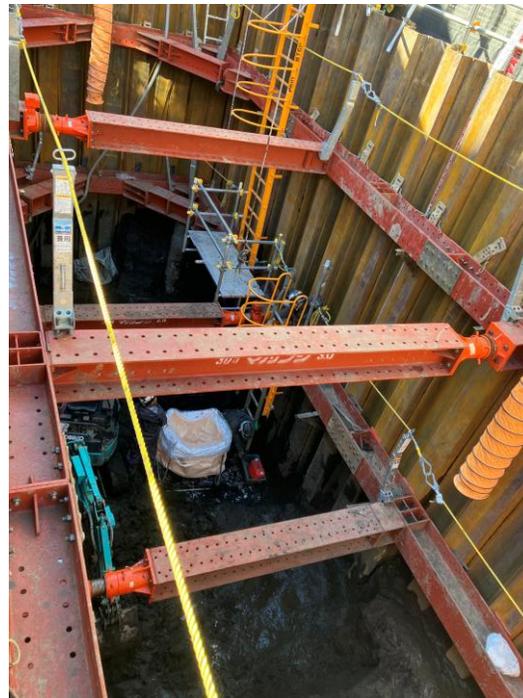
第3四半期における取組事例



新築クリニックビル



川越市工場跡地



掘削除去+原位置浄化

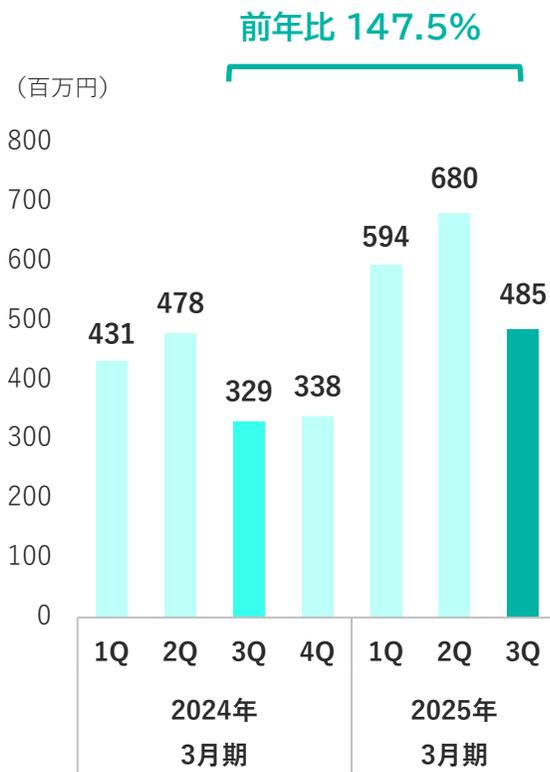


大田区工場・居宅

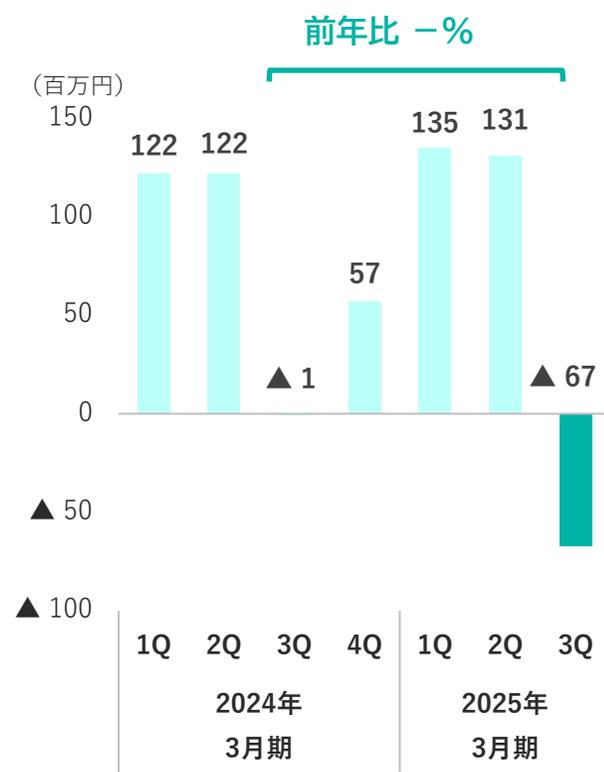
# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## 自然エネルギー事業

### セグメント売上高



### セグメント利益



### 3Qの結果・成果

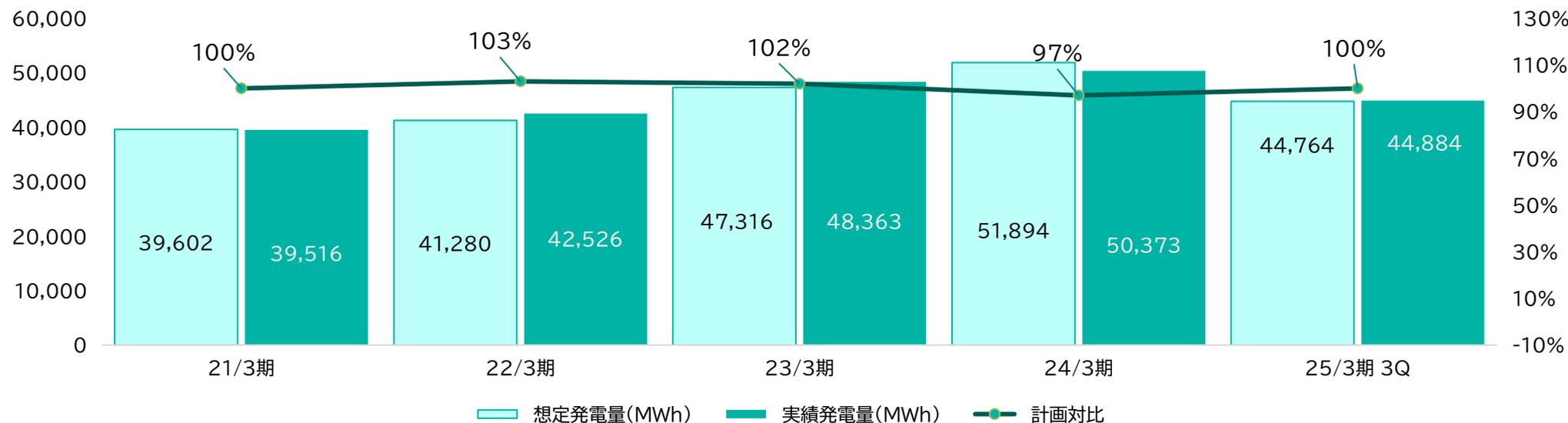
- ✓ MaF(同)では、PPA(電力購入契約)事業を7か所(合計1.8MW)稼働済
- ✓ 11月14日LSふじみ野A運転開始
- ✓ 国内外の太陽光発電所の稼働が堅調に推移し、オンサイトPPAを含む再エネ供給サービスが増加
- ✓ 保有する海外発電所の発電規模に対する比率は7%であるものの、発電効率が高いことから、発電量比率は10%を超える
- ✓ 季節変動により3Q(10~12月)に太陽光発電の発電量が最も少なくなることに加え、能登半島地震の影響により、石川県志賀町メガソーラー発電所敷地内の土木工事等を実施し修繕費用が発生したことなどから減益に転じた

# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## 自然エネルギー事業

### 国内外における太陽光発電電力量

	21/3期	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期 3Q
物件数	31	36	43	51	55
パネル出力(MW)	36.9	39.8	44.1	49.5	54.9
想定発電量(MWh)	39,602	41,280	47,316	51,894	44,764
実績発電量(MWh)	39,516	42,526	48,363	50,373	44,884
差異(MWh)	△ 86	1,246	1,047	△ 1,521	120
計画対比	100%	103%	102%	97%	100%



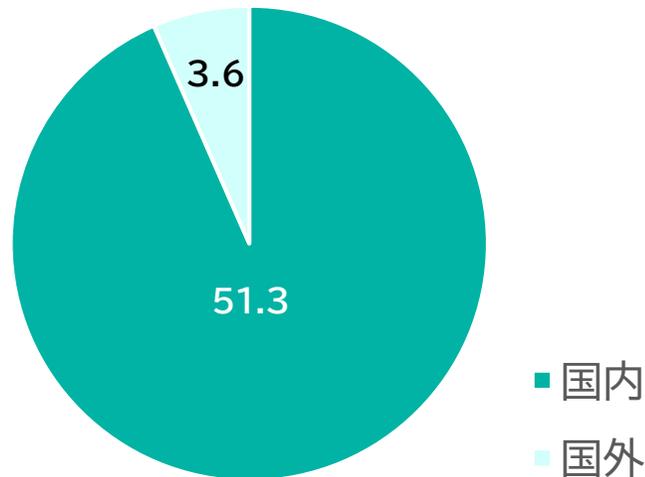
# 2025年3月期 第3四半期セグメント別業績

## 自然エネルギー事業

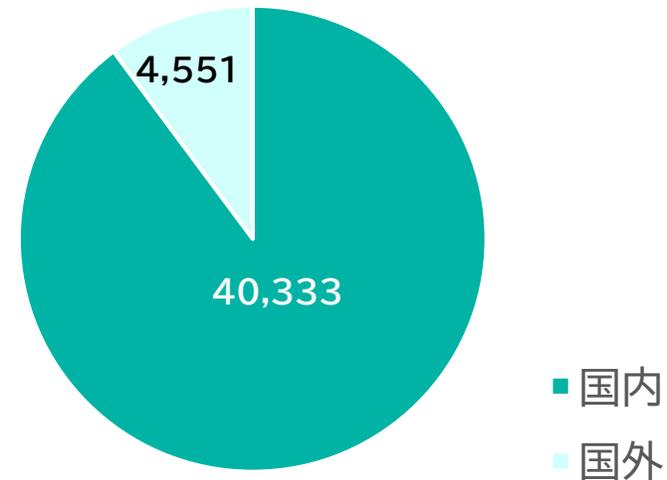
### ポートフォリオ概要

	国内	国外
物件数	49	6
合計パネル出力(MW)	51.3	3.6
25/3期3Q 実績発電量(MWh)	40,333	4,551

合計パネル出力(MW)



25/3期3Q 実績発電量(MWh)



# 通期連結業績予想

03

# 2025年3月期 通期連結業績予想

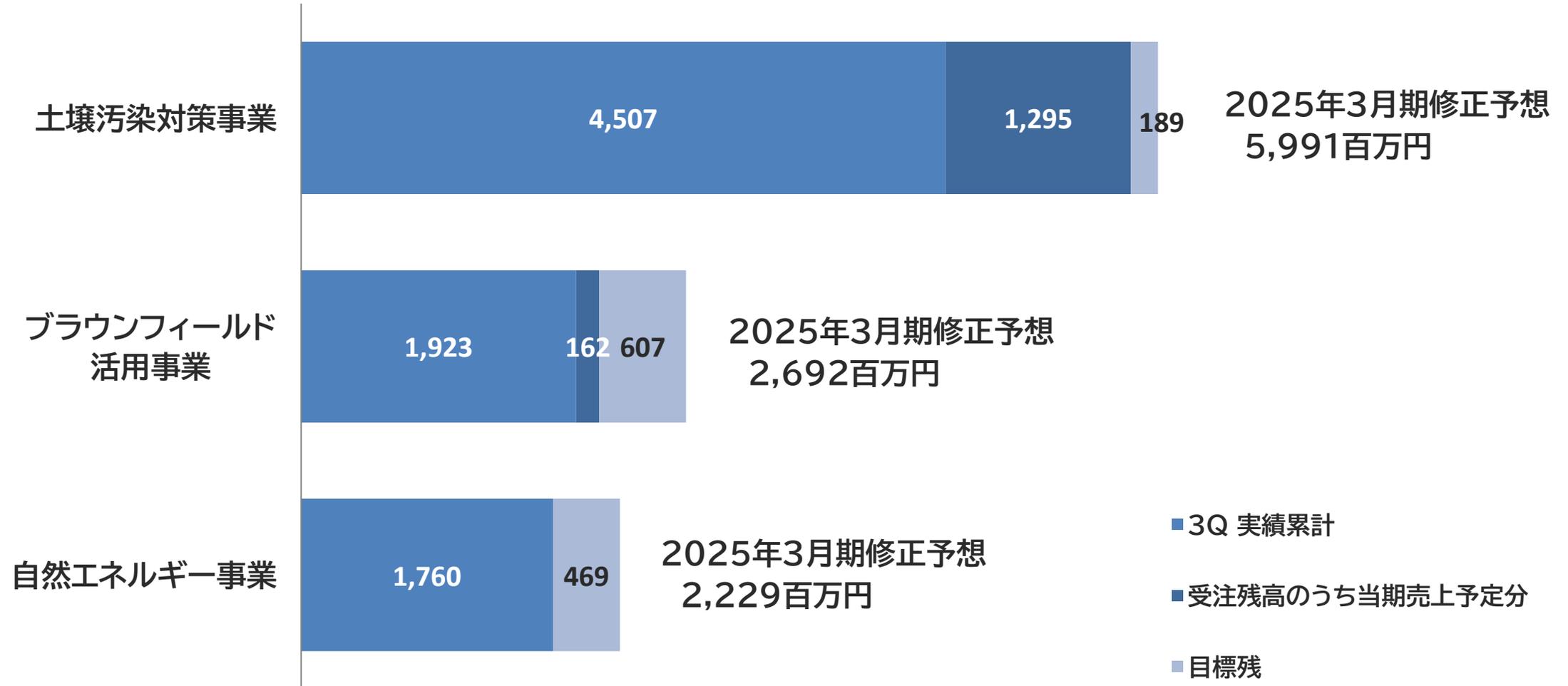
(単位:百万円)

	2024年3月期実績		2025年3月期修正予想		
		利益率 (%)		利益率 (%)	前年比 (%)
売上高	9,575	—	<b>10,913</b>	—	114.0
営業利益	815	8.5	<b>818</b>	7.5	100.4
経常利益	1,067	11.1	<b>674</b>	6.2	63.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	708	7.4	<b>450</b>	4.1	63.5
期末為替レート(1ドル)	151.4円	—	151.4円	—	—

# セグメント別の受注状況

2025年1月24日現在

(単位:百万円)



# 株主還元・IR 04

# 株主還元

「将来の事業展開のための内部留保の充実」と「成長に応じた利益還元」を両立させることを重要な経営課題として位置付け、継続的かつ安定的に配当することを基本方針としている。また、中長期的に株式を保有していただける株主様の増加を図ることを目的に、2023年9月より株主優待制度を導入。

## 配当(還元率)

配当は、ストックビジネスである自然エネルギー事業の既設設備から得られる収益の約30%を当面の配当原資とすることで、配当の安定的な増加の実現を目指している

	2024年3月期	2025年3月期(予想)
1株当たり配当額	8.00 円	8.00 円
株主還元 合計 (A)	91.9 百万円	94.4 百万円
配当総額	65.1 百万円	64.6 百万円
株主優待	26.8 百万円	29.7 百万円
当期純利益 (B)	708.7 百万円	450.3百万円
還元率 (A)÷(B)	13.0 %	21.0 %

## 株主優待

- ① 株主優待の内容  
保有する株式数に応じたポイントが加算され、株主様限定の特設サイトにおいて、そのポイントと食品、電化製品、ギフト等の交換
- ② 対象となる株主様  
毎年9月末現在の当社株主名簿に記載又は記録された700株以上保有の株主様

保有株式数と付与ポイント数

保有株式数	付与ポイント数
700~799株	3,000ポイント
800~899株	5,000ポイント
900~999株	10,000ポイント
1,000株以上	20,000ポイント

# ご案内 クロスメディアで企業の魅力を伝える

エンバイオ・グループの認知度向上等を狙って個人投資家向け雑誌、テレビ、SNSを利用した発信を行いました。

<https://www.youtube.com/watch?v=M149IkrAqVE>

こちらの当社YouTubeリンクの概要欄より、YouTube配信版をご覧ください。

雑誌

JJ

×

WEB/SNS

JJOnline  
Japanese Investor

×

テレビ

TOKYO MX

- ✓ TOKYO MX番組内のコーナー企画「知ッtok企業」に出演
- ✓ 番組では取材VTRを交え、企業の魅力をクイズ形式で紹介
- ✓ 放送内容の拡大版をJJOnline公式YouTubeチャンネルで配信、JJ誌広告記事を掲載

Question エンバイオ・ホールディングス 証券コード 6092

ヨルダンの  
太陽光発電所で  
発電した電気の  
利用方法とは?



YouTube



雑誌



TV



※当社公式YouTubeチャンネル登録よろしくお願いたします

# Appendix 05

会社概要

---

セグメント別 事業概要

---

ご案内



**Engineering × Soil**



**Engineering × Energy**

技術を中心とした事業展開



**Engineering × Water**

## Purpose

環境問題に技術と知恵で立ち向かう

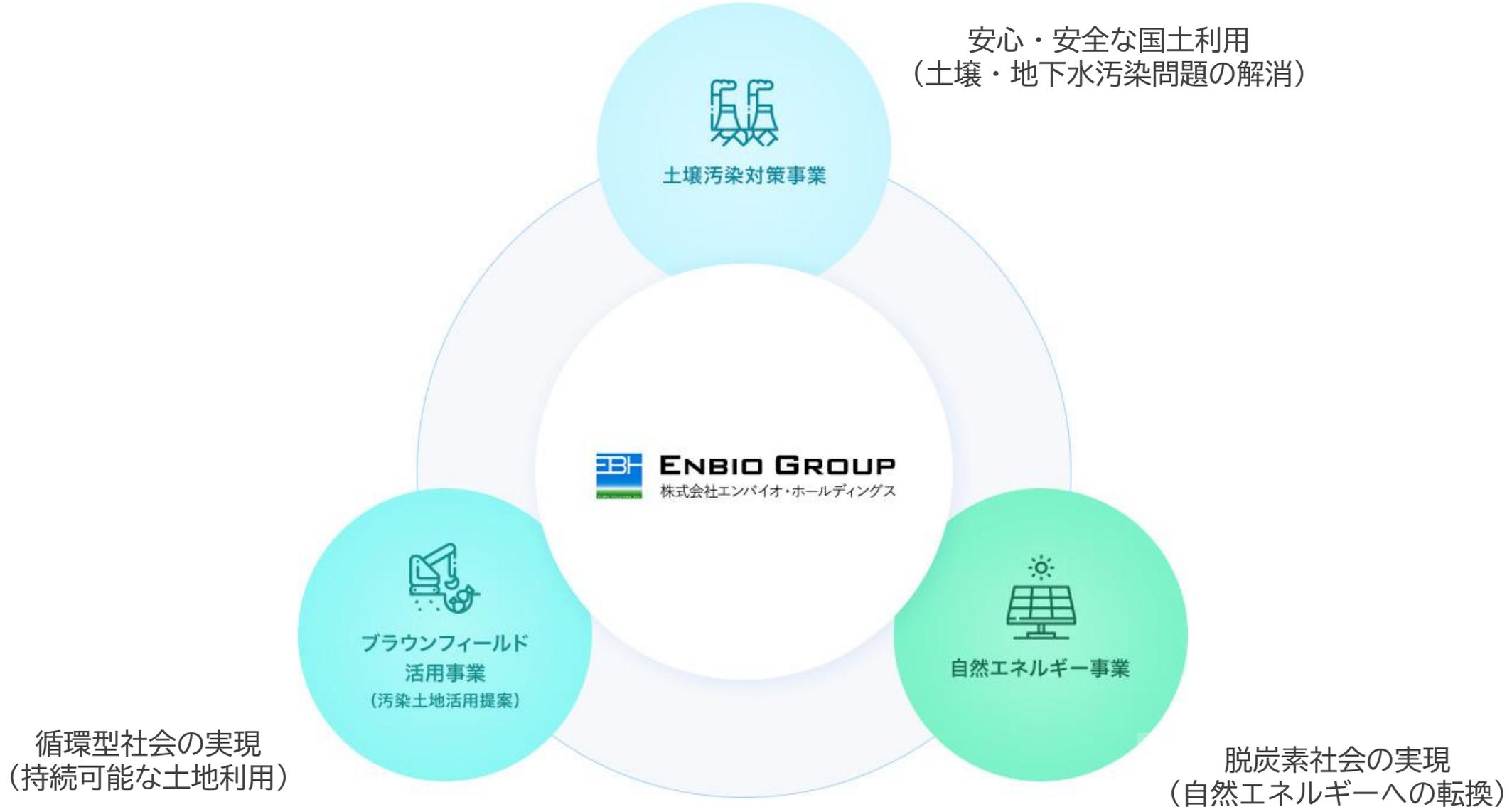
## Vision

環境問題の解決と健やかな環境づくりを推進し、  
持続可能な社会の構築に貢献する

## Mission

環境保全に役立つサービスと製品の提供

# 会社概要 3つの事業セグメント



# 会社概要

会社名 株式会社エンバイオ・ホールディングス

本社 東京都千代田区鍛冶町2丁目2番2号

代表者 代表取締役社長 中村 賀一

設立日 1999年6月23日

資本金 2,325百万円

発行済株式数 8,175,200株

役員	代表取締役社長	中村 賀一
	取締役会長	西村 実
	取締役	山本 敏仁
	取締役	横溝 透修
	社外取締役	亀山 忠秀
	社外取締役	小竹 由紀
	社外取締役 常勤監査等委員	高山 和夫
	社外取締役 監査等委員	星野 隆宏
	社外取締役 監査等委員	平田 幸一郎
社外取締役 監査等委員	行川 一郎	

※2024年11月15日をもって、田月智之氏は取締役を辞任いたしました

従業員数 106名（グループ全体、2024年3月末時点）

事業内容

土壌汚染の調査・対策工事・コンサルティング  
ブラウンフィールドの活用  
自然エネルギーの活用

## ■ 土壌汚染対策事業

株式会社エンバイオ・エンジニアリング  
恩拜欧(南京)环保科技有限公司

## ■ ブラウンフィールド活用事業

株式会社エンバイオ・リアルエステート  
株式会社土地再生投資（60%）

## ■ 自然エネルギー事業

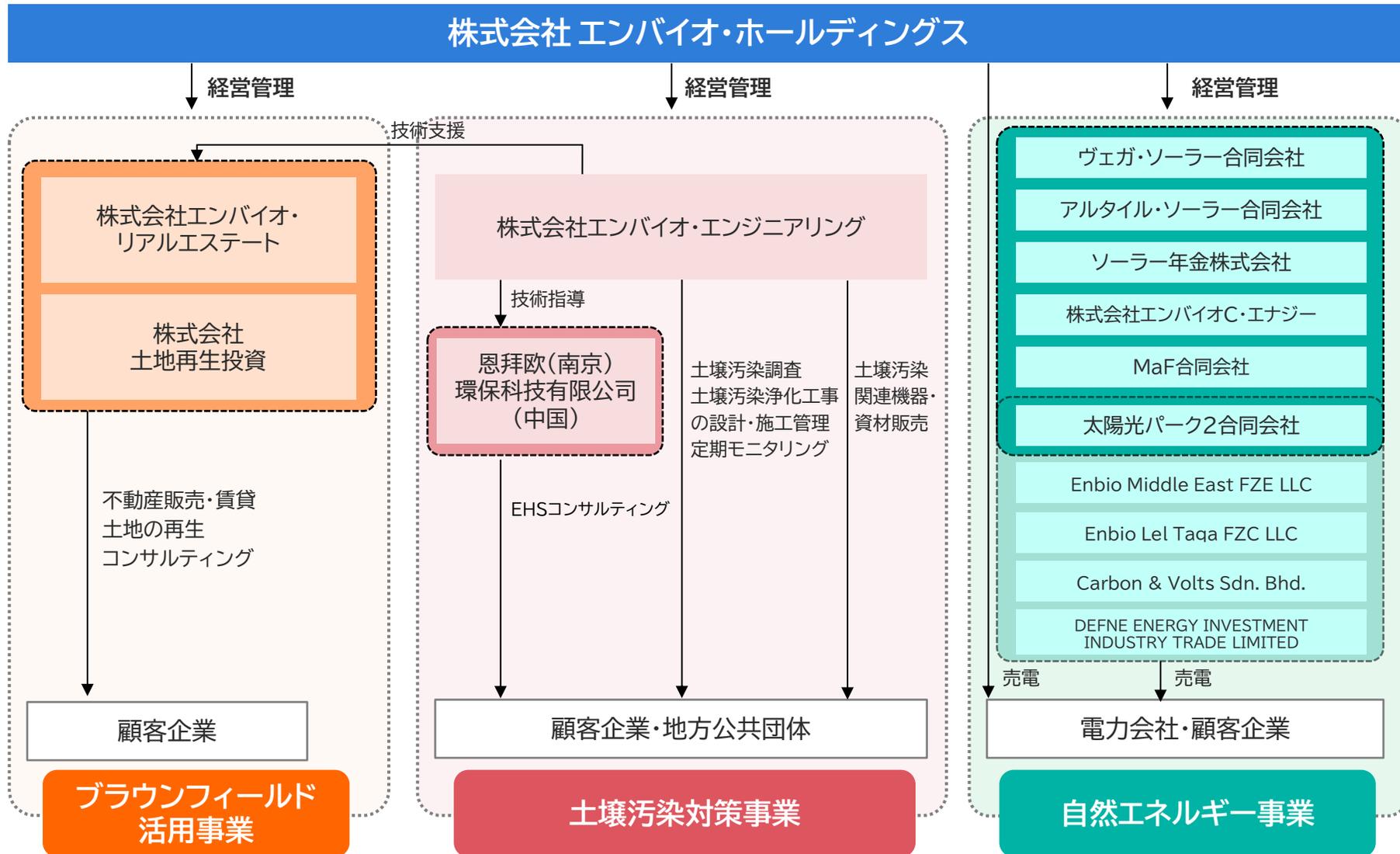
ヴェガ・ソーラー合同会社  
アルタイル・ソーラー合同会社  
ソーラー年金株式会社  
太陽光パーク2合同会社  
株式会社エンバイオC・エナジー  
MaF合同会社(90%)  
Enbio Middle East FZE LLC(UAE)  
Enbio Lel Taqa FZC LLC(UAE) (80%)  
DEFNE ENERGY INVESTMENT  
INDUSTRY TRADE LIMITED (TURKEY) (76%)

主要な子会社

主要な関連会社

Carbon&Volts Sdn. Bhd. (40%)

# 会社概要 事業系統図



# 事業概要 土壌汚染対策事業

## 土壌汚染事業の取り組み 汚染土壌の管理を目的とした対策

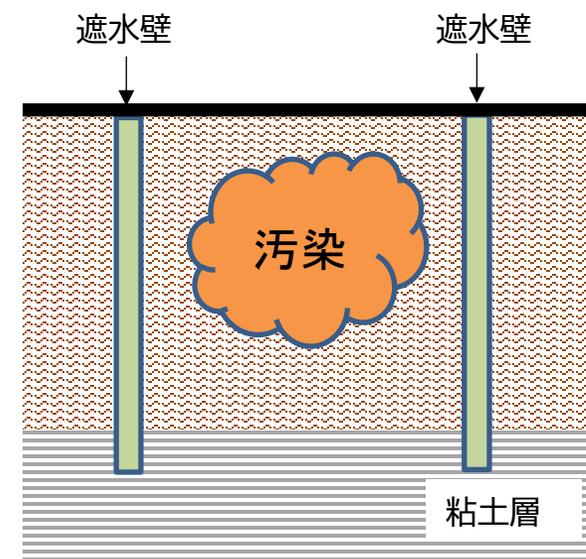
リスク管理型の手法により、対策費用と期間を大幅に圧縮するとともに、脱炭素を目指す取り組みにも貢献している。



原位置封じ込め工法の作業状況  
(地盤改良機による遮水壁の設置)

### 原位置封じ込め工法の特徴

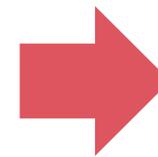
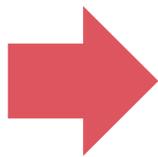
汚染を周辺の地下水から遮断することで健康被害が生じることを防止する工法  
高濃度汚染の場合は原位置浄化工法を併用する  
必要があり、自社技術をさらに活かしやすい



# 事業概要 土壌汚染対策事業

## 土壌汚染事業の取り組み ドローンを利用した施工管理

ICTの活用により、環境に配慮した効率の良い工法の実用化に取り組んでいる。



解体と土壌汚染対策を  
並行して施工した事例



ドローンを利用した  
施工管理の状況



グループ内発電所の  
点検にもドローンを利用

# 事業概要 土壌汚染対策事業

## PFOS・PFOA対応に有効な米国製ツール・薬剤

これらの製品を独占的に輸入し自社で利用するだけでなく、販売を通して専門業者向けのサービスも展開している。  
PFOS・PFOAの調査で求められるPFASフリー製品を各種揃えている。



環境調査専用開発されたツール



米国の規格(ASTM)に準拠した製品は、意図しない不純物の混入を防ぐための配慮の徹底化

PlumeStop™  
LIQUID ACTIVATED CARBON™



Geoprobe™



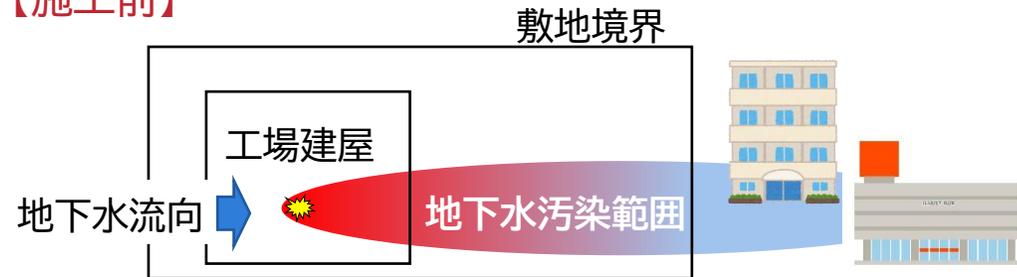
PFOS汚染の拡散防止剤  
(地盤に注入して使用)

# 事業概要 土壌汚染対策事業

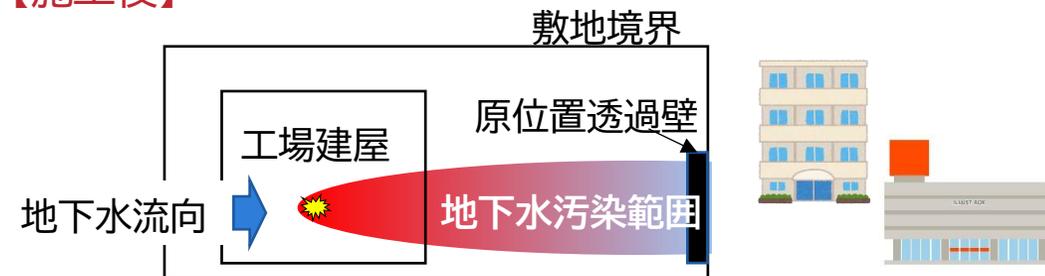
## 新技術・工法の導入

揚水対策以外で拡散防止／メンテナンス不要な工法

【施工前】



【施工後】



解説動画：<https://youtu.be/2Y8mZQt1oek>

- ✓ 米国リジェネシス社が開発した原位置透過壁工法(プルームストップ)工法、欧米では揚水処理工法の代替として660件超の実績を誇り、国内では同社製品の独占販売権を有する当社でのみ設計・施工が可能
- ✓ 特殊な活性炭を地盤に注入し、地下水中の汚染物質を吸着させて地下水汚染の拡散を防止するメンテナンスフリーの原位置透過壁を形成する工法、既存の透過壁に比べて圧倒的な価格競争力を有す
- ✓ 欧米ではPFOS・PFOAによる汚染地下水の拡散防止技術としても認知

PlumeStop<sup>™</sup>  
LIQUID ACTIVATED CARBON<sup>™</sup>



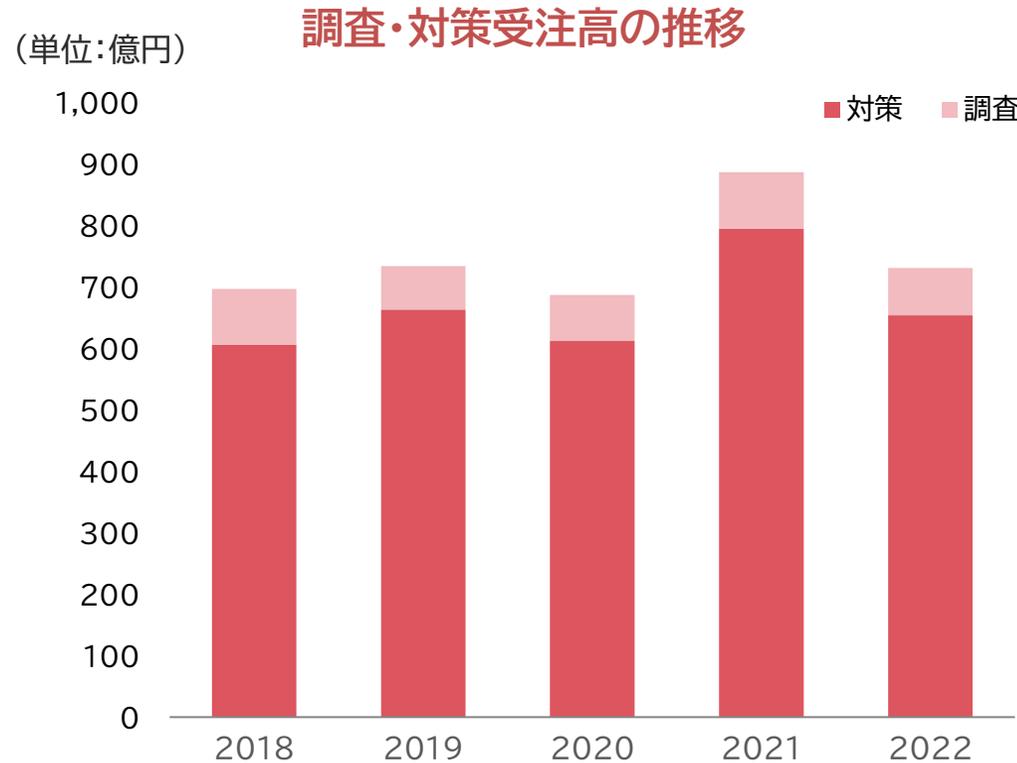
Geoprobe<sup>®</sup>

地下水汚染の拡散防止剤  
(地盤に注入して使用)

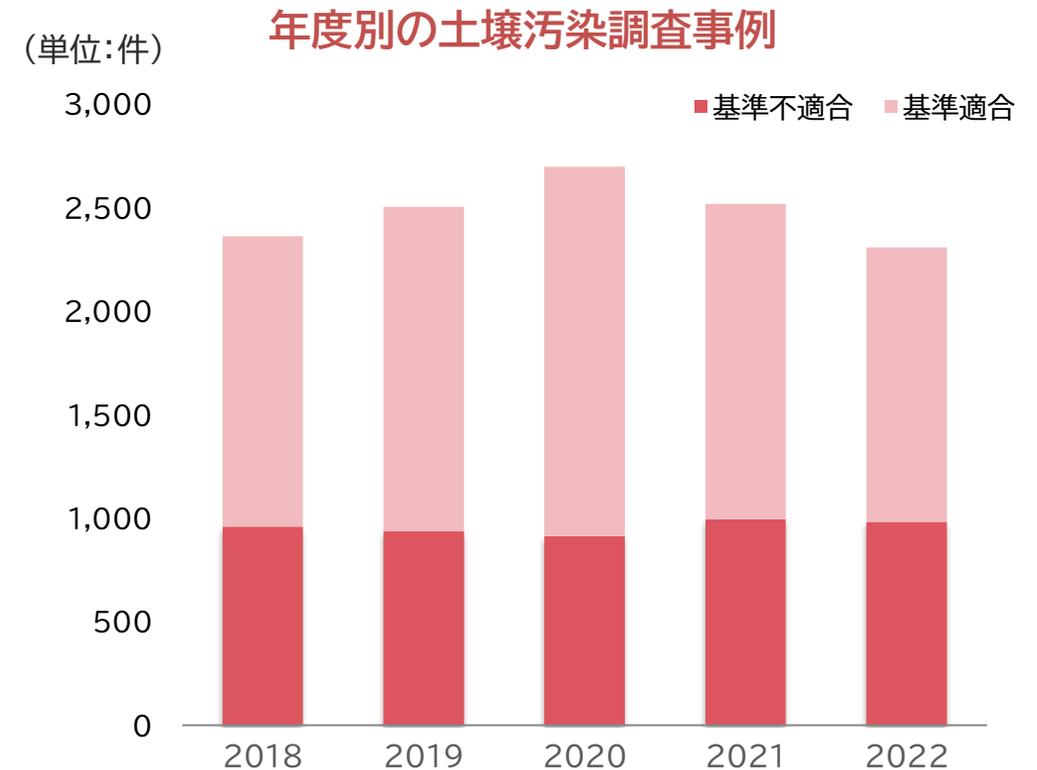
# 事業概要 土壌汚染対策事業

## 土壌汚染対策事業の市場規模

2019年4月土壌汚染対策法の一部を改正する法律施行、土壌汚染調査の契機が拡大  
受注金額はここ数年700～900億円のレンジで推移



出所: 令和4年度土壌汚染状況調査・対策に関する実態調査(土壌環境センター)



出所: 令和4年度土壌汚染対策法の施行状況及び土壌汚染調査・対策事例等に関する調査結果(環境省)

# 事業概要 ブラウンフィールド活用事業

## (株)エンバイオ・リアルエステート の取り組み

①所有者様から汚染地を購入



②薬剤などで浄化



③宅地などとして売却



(例)

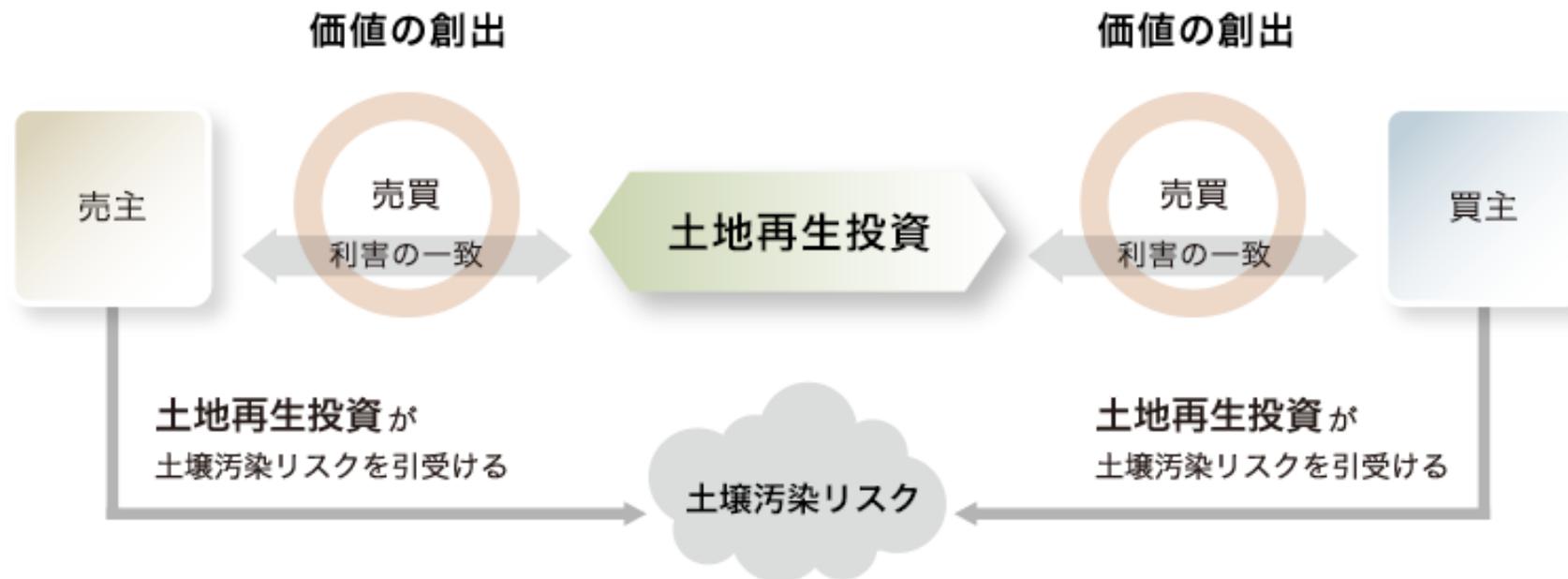
- ✓ 所有者の会社清算に伴い、弊社にて現況有姿・土壌汚染を含む契約不適合責任免責にて購入
- ✓ 弊社取得後、土壌調査を実施し、要措置区域に指定(購入時に想定済)
- ✓ (株)エンバイオ・エンジニアリングが土壌浄化(原位置浄化)施工後、2年間モニタリング実施
- ✓ 要措置区域解除後、大手戸建業者へ売却

# 事業概要 ブラウンフィールド活用事業

## (株)土地再生投資 の取り組み

### 土地取引における土壤汚染のリスクテイク

- ① 土壤汚染が内在する土地、土壤汚染リスクが指摘される土地を現状有姿で取得
- ② 適切な土壤汚染対応を講じたうえで、最終需要家へ再生後の土地を売却



# 事業概要 自然エネルギー事業

## 自然エネルギー事業 の取り組み

太陽光発電  
(国内外で72MW ※インドネシア含む)



FITやPPA等による太陽光発電

水力発電・太陽光発電  
(インドネシア)



太陽光発電・水資源開発  
(ヨルダン)



太陽光発電を利用した水資源開発

バイオマス発電・地域バイオマス利用  
(トルコ)



地域バイオマスを利用したガス化発電

## 太陽光発電事業

太陽光発電所  
(ロジスクエア一宮太陽光発電所) 1.3MW



# 事業概要 自然エネルギー事業

## 国内太陽光発電所の稼働状況

約 **51.3MW** の太陽光発電所が稼働中

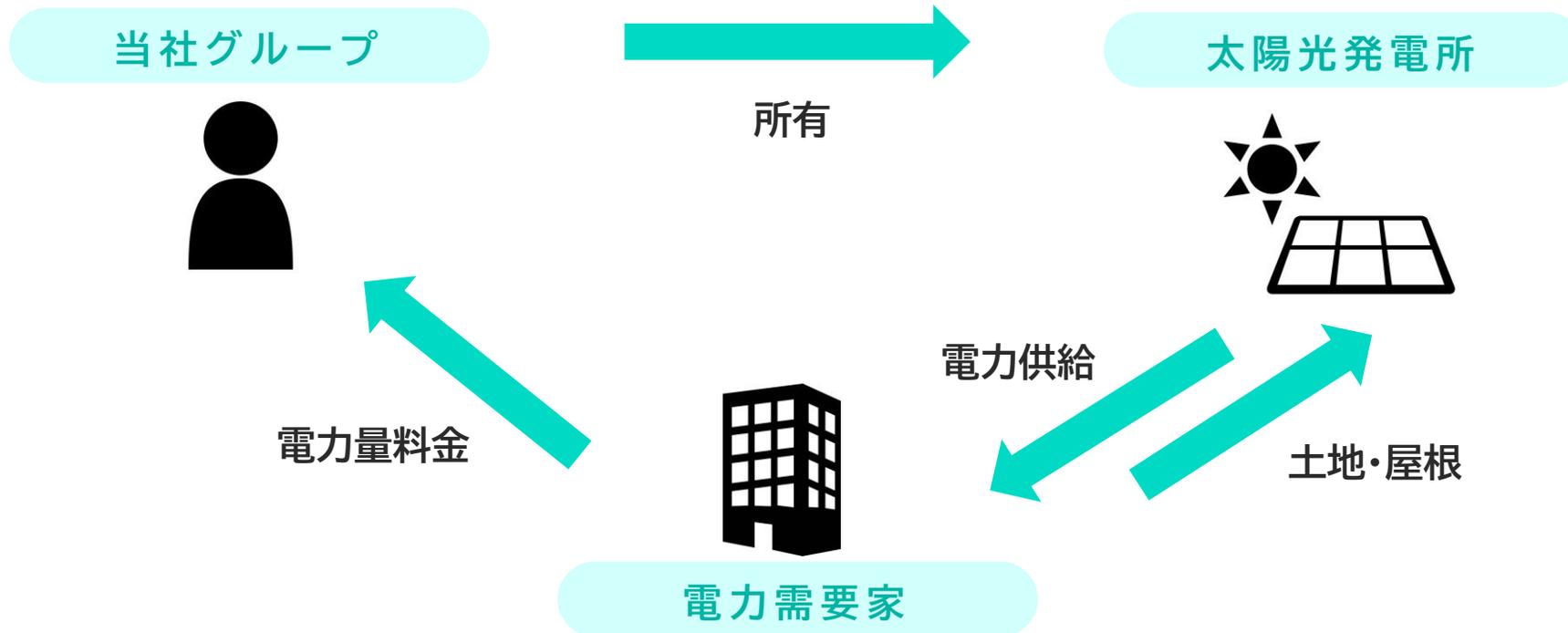
(2024年12月末現在) ※PPA案件、15か所稼働中



# 事業概要 自然エネルギー事業

## PPA※：電力購入スキーム図

中期経営計画の経営目標である脱炭素社会の実現に向けた取り組み



※Power Purchase Agreement(電力販売契約)の略で、施設所有者の屋根や空地等のスペースに太陽光発電設備の所有、管理を行う会社(PPA事業者)が設置した太陽光発電システムで発電された電力をその施設の電力使用者(施設所有者)へ有償提供する仕組み

# 事業概要 自然エネルギー事業

## 海外事業の取り組み

### ヨルダン・ドバイ(太陽光発電所)

- ✓ ヨルダンにて5プロジェクト合計2.8MWの太陽光発電所が計画通りに稼働中
- ✓ ドバイ、インダストリアルシティー地区(DIC)にて0.7MWの太陽光発電所が計画通りに稼働中
- ✓ 新規案件検討中



### トルコ(バイオマス発電所)

- ✓ 地方環境局より、環境ライセンスの追加を要請され、その対応の為運転を停止し、整備を進めていた。まだいくつかの対応は残すものの、ある程度の目途が立ち、再稼働へ向け準備中。現在追加のエンジンが到着し、2ndライン設置工事中。試運転の準備に入る。



## 将来の見通しに関する注意事項

---

本資料および本説明会における予想値および将来の見通しに関する記述・言明は、将来の予測であってリスクや不確定要素を含んだものであります。従いまして、実際の業績等は、様々な要因により記載の内容とは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、社会的動向、当社の提供するサービス等に対する需要動向や競争激化による価格下落圧力などです。なお、業績に影響を与えうる要因は、これらに限定されるものではありません。

---

お問い合わせ先  
株式会社エンバイオ・ホールディングス  
IR担当者

E-mail  
ebh-info@enbio-corp.com

Website  
<https://enbio-holdings.com/>